

1 求める提案・分野

市内 13 か所にある市道のアンダーパスの冠水に係る監視体制強化の提案

分野（あてはまるもの全てに☑）

- ☐ I. 子育て・教育・学習
- ☐ II. 健康・福祉・医療
- ☒ III. 安心・協働・共生
- ☐ IV. 魅力・交流・文化
- ☐ V. 産業・環境
- ☐ VI. 都市空間・交通

2 現状・課題

- ・本市では、平成21年度から導入した「道路冠水情報システム」により、市内13アンダーパスにおいては、大雨時の状況を把握し、現場対応を行っているほか、通行状況を現地の冠水情報板へ表示している。
- ・現システム稼働から約17年が経過し、設備老朽化が進んでいる。
- ・近年の気候変動に伴い、台風やゲリラ豪雨など自然災害が激甚化・頻発化することが予想される中、今後は、冠水情報をリアルタイムに把握し、より一層迅速かつ効果的な情報把握が可能なシステムを導入する必要がある。

3 今後の展望（ステップ） → ゴール

(令和8年度) 意見交換

(令和9年度) 実証実験→予算化

(令和 10 年度) 本格実装

ゴール：アンダーパス周辺住民や所管警察署からの発見・通報に頼らない冠水発生把握率１００％（令和１０年度）

4 市（主に所管課）の特徴・強み

- ・アンダーパスにおける道路冠水情報システムの導入（平成21年度）
- ・国土交通省のワンコイン浸水センサ実証実験に係るセンサ設置〔一部のみ〕（令和7年度）

5 実施スケジュール（あてはまるものに☑）複数回答可

- ☐ 未定
- ☒ まずは相談・意見交換をしたい
- ☐ 実証実験等やりたい
- ☐ 今後、予算化を検討
- ☐ その他（

6 求める提案イメージ

全国的にも台風やゲリラ豪雨による道路冠水被害が増加する中、デジタル技術を活用した効率的な道路の維持管理による安全・安心な社会基盤の構築

(例1) 高精度・低コストな冠水モニタリング

 IoTセンサーやカメラ映像解析、雨量データ連携等の技術により、アンダーパスの状況を常時自動で把握する仕組み

実証ポイント

- ✓ 豪雨時などの過酷な環境下でも誤検知なく正確に機能するか
- ✓ 冠水発生前の兆候段階から予測検知が可能か

(例2) リモート監視による初動対応時間の短縮

 リモートで状況把握できる遠隔モニタリング環境を構築し、現場規制等の初動を迅速化する仕組み

実証ポイント

- ✓ 発生検知から状況把握・現場判断までの対応時間を短縮できるか
- ✓ 現地の冠水情報板への表示など即座の規制指示連携が可能か

(例3) リアルタイム情報の自動発信&避難誘導

 市HP上への「冠水マップ」掲載や、市SNS・防災メール等へ冠水情報をタイムラグなく発信し、市民の迂回・避難行動に寄与する仕組み

実証ポイント

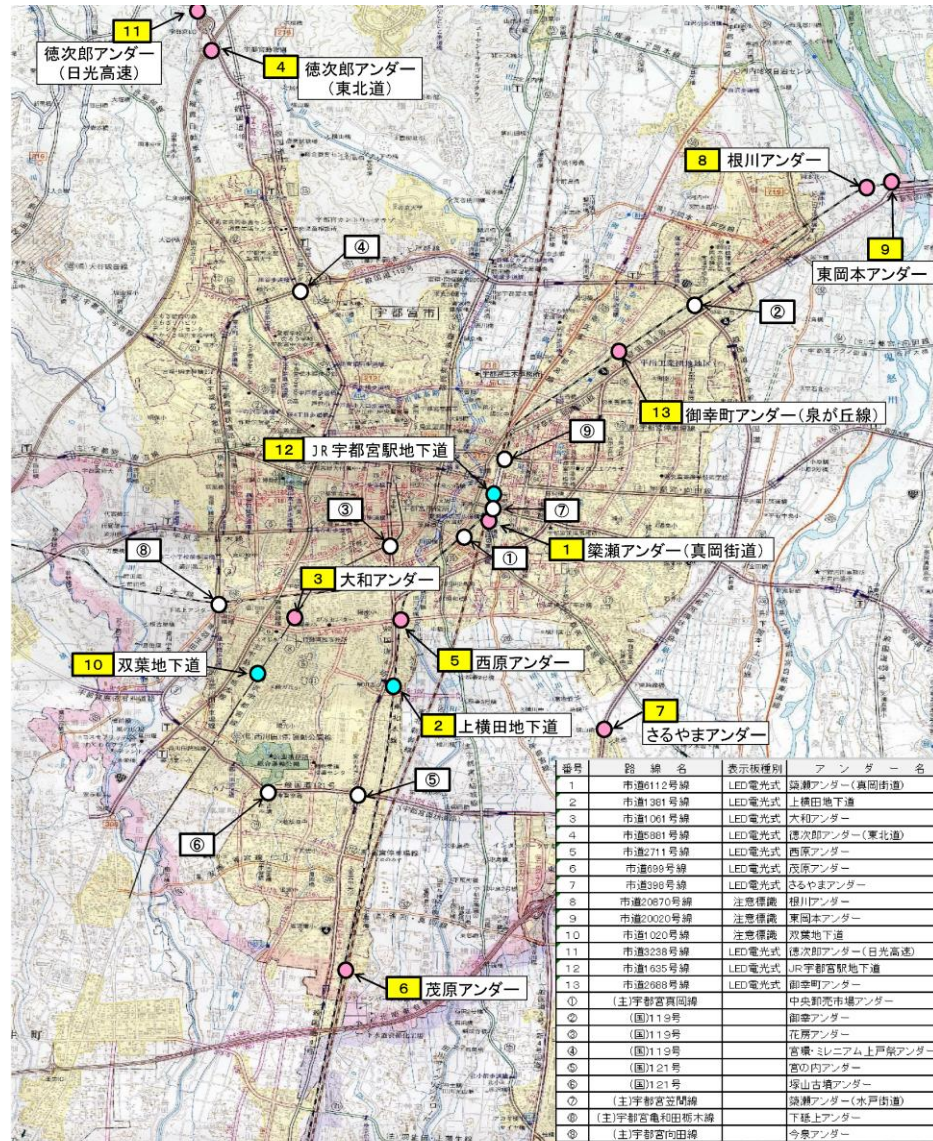
- ✓ 検知した冠水データがタイムラグなしで連携されるか
- ✓ 市民の安全な迂回・避難行動に関与するか



【アンダーパスの監視体制強化】

様式 1

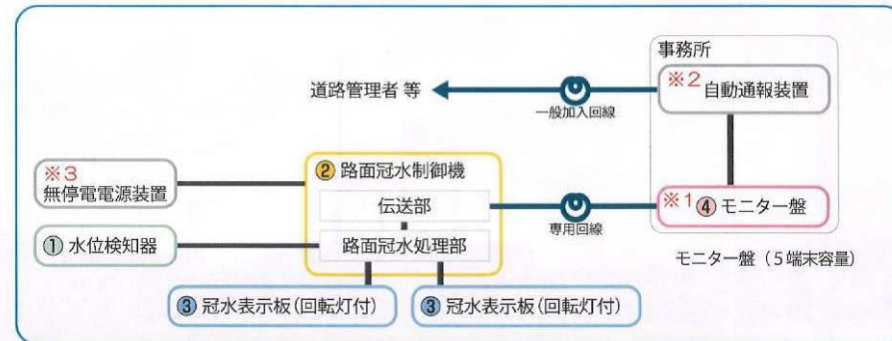
〔参考〕アンダーパス位置図（13か所：黄色）



◎「道路冠水情報システム(現行)」の概要
〔平成21年度～〕



システム系統図



機器構成図

